

これまでの主な取組

「あいちトップアスリートアカデミー」の実施

アジア競技大会・アジアパラ競技大会やオリンピック・パラリンピックなどの国際競技大会で活躍できる地元選手の発掘・育成を図ることを目的として、2019年から実施しています。アカデミー生は、小学校4年生・5年生（キッズ）、小学校6年生から中学校2年生（ジュニア）、中・高・大学生年代（ユース）、小学4年生以上の肢体不自由者・知的障害者・視覚障害者（パラアスリート部門）を対象に、年度毎に募集しています。



大会を支えるボランティアの確保・育成

大会に向けたボランティア体制づくりや、スポーツボランティアに対する理解を深めるためのセミナーなどを行っています。また、ボランティアの育成を図るためのプログラムの検討を行っています。

アジア競技大会

4年に一度開催され、オリンピックに次ぐ参加選手を誇るアジア最大のスポーツの祭典です。

- ◆主催
アジア・オリンピック評議会（OCA）
- ◆大会期間
2026年9月19日（土）～10月4日（日）16日間
- ◆実施競技
パリオリンピック（2024年）で実施される32競技に加え、アジア特有の競技等含む 41 競技
- ◆参加国・地域
OCA加盟の45の国と地域
- ◆選手団（選手、チーム役員等）
最大15,000人



アジアパラ競技大会

4年に一度開催されるアジア地域の障害者総合スポーツ大会。日本では初めての開催になります。

- ◆主催
アジアパラリンピック委員会（APC）
- ◆大会期間
2026年10月18日（日）～10月24日（土）7日間
- ◆実施競技
18競技
- ◆参加国・地域
APC加盟の45の国と地域
- ◆選手団（選手、チーム役員等）
3,600人～4,000人



アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン（概要版）

アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョンとは

アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催にあたっては、大会を一過性のものとせず、公正・公平な大会運営を通じて、愛知全体のブランド力を高めるとともに、スポーツ振興や観光・産業振興、人材育成など地域活性化につなげていくことが必要と考え、愛知県が取り組むべき方向性を示すものとして、「アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」を策定しました。

計画期間の考え方

2030年頃の本県の姿を見据えながら、大会前、大会期間中、大会後のそれぞれに取り組むべき地域活性化の方向性を定めます。

地域活性化に向けた4つの視点と5つの目標

4つの視点

スポーツの力を活かす

アジアと強くつながる

多彩な人々が参画する

リニア開業を見据える

5つの目標

スポーツで愛知を
ブランディングする

【スポーツ・健康】

多くの来訪者で賑わう
愛知をつくる

【観光・文化】

アジアにおける愛知の
産業の存在感を強める

【地域経済・産業】

アジアと愛知の
次世代を育む

【人材育成・国際交流】

すべての人が活躍できる
愛知をつくる

【共生社会・ユニバーサルデザイン】

SDGsの達成をはじめとした社会課題の解決への貢献

本県では、2005年の日本国際博覧会（愛知万博）、2010年の生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）、2014年の持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議が開催され、これらの理念や成果を継承して持続可能な社会づくりに取り組んでいます。

本ビジョンの取組や愛知・名古屋大会の大会運営を通じて、SDGsの達成など、世界が抱える環境や人権などの社会課題の解決に向けた取組を進めていきます。



目標1 スポーツで愛知をブランディングする

【スポーツ・健康】

目指す姿

- 本県から多くのトップアスリートが輩出され、大会で活躍しています。
- アスリートが本県において、充実した選手生活を送ることができています。引退後も安定した生活を送ることができるとともに、県内の各地域においてスポーツの強化や普及、さらにはアスリートの経験を活かした様々な活躍ができる場が地域に整っています。
- 大会を機会に、国際的スポーツ大会の開催がさらに増えています。県民のスポーツへの関心も高まるとともに、各世代においてスポーツに親しむ人が増えています。



車いすバスケットボール女子カナダ代表候補選手の名古屋市での東京2020大会事前キャンプの様子

基本施策と主な取組の例

1-1. トップアスリートの育成・輩出

- ①「あいちトップアスリートアカデミー」の実施
- ②競技力向上対策事業、選手強化事業の実施
- ③アスリートサポート事業の実施
- ④コーチ・トレーナー等のサポート人材の育成・確保
- ⑤トレーニング環境の充実

1-3. スポーツ大会等の招致

- ①国際的大会、国際親善試合の招致・育成
- ②全国大会の招致・開催
- ③トレーニングキャンプ等の誘致

1-2. スポーツの振興

- ①地域のスポーツイベントの活性化
- ②スポーツ関連施設の有効活用の促進
- ③地域に密着した特定競技の普及・支援の推進
- ④地元チーム・アスリート応援事業の実施

1-4. アジアのスポーツ振興への貢献

- ①アジアのアスリートの受入
- ②アスリート・指導者等によるアジアとの交流
- ③アジア競技大会・アジアパラ競技大会の運営ノウハウの提供

目標2 多くの来訪者で賑わう愛知をつくる

【観光・文化】

目指す姿

- 多くの魅力ある観光資源があり、誰もが心地よく滞在できる地域と本県が評価されて、国内外から多くの観光客が訪れ、県内各地域の交流人口が増加しています。
- 日本、愛知のスポーツ、文化、芸術、コンテンツ等に対するアジアの人々の関心が高まり、アジア各国との交流が活発になっています。



ジャカルタ大会の地元の魅力PRコーナー

基本施策と主な取組の例

2-1. 愛知を中心とした観光交流拠点の形成

- ①大会PRと併せた愛知の魅力発信
- ②アジアからの来訪者向けのツアー造成
- ③食文化の魅力の発信
- ④広域観光の推進

2-3. 受入環境の整備、おもてなしの充実

- ①来訪者の利便性の向上
- ②案内機能・多言語対応の充実
- ③多様な文化・宗教への配慮

2-2. スポーツ・文化等のコンテンツの充実

- ①スポーツツーリズムの推進
- ②文化芸術イベントの展開
- ③産業観光・歴史観光の推進

地域活性化のための基本施策

目標3 アジアにおける愛知の産業の存在感を強める

【地域経済・産業】

目指す姿

- 愛知が「高度先端産業」の集積地であることや、次世代技術を取り入れた新しい産業の展開がアジア各国に周知され、県内企業の海外展開のチャンスが拡大するとともに、アジア各国との経済的なつながりがより密接なものとなっています。
- 愛知の農林水産物や地場産品のブランド力がアジアにおいて強化され、アジア各国で広まっています。



基本施策と主な取組の例

3-1. アジアやスポーツの課題に対応する技術開発の促進

- ①アジアの課題解決に貢献するビジネス展開の促進
- ②スポーツとの連携による産業の新たな展開

3-2. 「Made in AICHI」のブランド力強化と販路拡大

- ①大会の各場面を使った「Made in AICHI」のショーケース化
- ②アジアにおける「Made in AICHI」の販路拡大
- ③県内企業のアジア展開の促進

3-3. アジアからの人材の活躍促進

- ①外国人留学生の地域での活躍促進
- ②外国人県民の地域定着、キャリアアップの促進
- ③外国人材の受入促進による産業競争力の向上



あいちの花を使った東京2020オリンピック聖火リレーの会場装飾

目標4 アジアと愛知の次世代を育む

【人材育成・国際交流】

目指す姿

- スポーツ大会等におけるボランティア活動の機会を通じて、やりがいや楽しさに気付いてもらうことで、ボランティア活動に取り組む県民が大きく増加しています。
- 「ひと」「もの」「情報」等における本県とアジア各国との交流がより一層盛んになり、お互いの発展に貢献しています。
- 優れた国際感覚を有するグローバル人材が本県から多く輩出されています。



基本施策と主な取組の例

4-1. ボランティアの育成

- ①ボランティアの定着化の促進
- ②ボランティア人材の育成
- ③大会を支えるボランティアの確保・育成

4-2. アジアとの交流の活発化

- ①地域におけるアジア各国との交流・友好の促進
- ②アジアの外国人県民とのネットワークの強化
- ③多様な分野によるアジア各国との交流促進

4-3. グローバル人材の育成

- ①国際理解教育の推進
- ②国際人材を目指したキャリア教育
- ③交換留学、海外との人材交流の促進



名古屋学芸大学と名古屋韓国学校デマチョゴリの共同制作交流

目標5 すべての人が活躍できる愛知をつくる

【共生社会・ユニバーサルデザイン】

目指す姿

- 各々の個性が尊重され、それぞれの能力が発揮できる社会が実現しています。
- ユニバーサルデザインの環境が整い、誰もが安全で快適に移動できるまちづくりが進んでいます。
- 誰もがパラスポーツを「する」「みる」「ささえる」環境が整っています。



基本施策と主な取組の例

5-1. 共生社会の実現

- ①人権教育・人権啓発の推進
- ②インクルーシブな地域づくり=全ての人を包み込み、分け隔てのない地域づくり
- ③誰もが参画・活躍できる環境づくり

5-2. ユニバーサルデザイン環境の整備・充実

- ①競技会場等におけるユニバーサルデザインの推進
- ②おもてなしによるユニバーサルデザインの充実
- ③県内各地へのユニバーサルデザインの展開

5-3. パラスポーツの推進

- ①パラスポーツの普及に向けた環境づくり
- ②パラスポーツに関わる機会の創出
- ③スポーツを通じた理解・交流の促進



地域のスポーツ指導者を対象としたパラスポーツ体験会